

インターバンクの声（2017 年 10 月 11 日）

昨日は北朝鮮労働党の創建記念日だったことから、長距離弾道ミサイル発射などの挑発に出てくることが懸念されたが、結局動きはなかった。

円相場は米金利の低下に伴ってロンドン市場が動き始める頃からドル売り・円買いが加速したが、112 円台前半までドル売りが進んでもドルを買い戻すような兆しも見えず、やはり北朝鮮への警戒感海外時間でも続いていたようだった。それでもニューヨーク市場の昼前に 112 円を割り込んだ時点ではドル売りも止まり、米金利が小幅ながら上昇に転じたこともあって、終盤の 112 円台中盤に向けて徐々にドルが買い戻されていった。

昨晩は円相場よりもユーロ相場に注目が集まっていたが、スペイン・カタルーニャ自治州政府のプチダモン首相は議会演説で、独立に関して中央政府との「対話の期間」を設ける提案を示す柔軟な見解を示した。このため先週末から続いていたユーロの上昇地合いの相場が崩されずに、1.18ドル付近で慎重な値動きが続いている。今日のアジア時間も方向感が見え難い相場展開が続きそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。